

令和元年度

事業報告

社会福祉法人能美市社会福祉協議会

令和元年度事業報告

法人運営は、理事会・評議員会、評議員選任・解任委員会の開催のほか、初めて、理事、監事、評議員の方々の連携を深めるため、役員等懇親会を開催しました。9月には大阪で開催された「いきがい・助け合いサミット in 大阪」に参加し、地域福祉に理解を深めました。会員会費については、「支え合いの地域づくり」を推し進めるため、今年度は、募集強化期間を7月と8月の2ヶ月間に広げ、期間を通して周知することに努めたり、能美市共同募金委員会からの配分金により、エコバックやマスキングテープ等を作成、第15回記念能美市社会福祉大会で配付し、「支え合いの地域づくり」の啓発に努めました。

また、第3次能美市地域福祉活動計画（以下、「第3次計画」という）は、推進の2年目の年度でした。これまでの取組みを基に能美市（以下、「市」という）が進める「地域共生社会」の各事業と連携しながら、2つの推進の委員会と進捗状況を確認するためのこころ豊かな地域づくりの会の活動に取り組みました。

しかし、2年目の進捗状況を市民に報告する機会である「春 まち ぽかぽか プロジェクト」（以下、「春まちぽかP」という）は、2月22日～3月1日の9日間、22プログラムで企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、残念ながら中止となりました。そのため、2年目の取組みを評価する評価委員会を3月23日に開催しましたが、報告会の準備段階での協議の積み重ねや各委員会からの自己評価及び今後に向けての視点と取組みを確認することで、総合評価としました。（評価委員会の評価は別途）

各事業については、市から受託した「地域福祉委員会活動推進委員養成・活動支援事業」、「生活支援サービス基盤整備事業」及び「地域力強化推進事業」では、地域福祉活動の基礎組織として、町会・町内会に設置された地域福祉委員会が、町会・町内会長が中心となり、民生委員・児童委員、福祉推進員等、同じ町会の中で、生活上の困りごとの課題や個別の支援について、話し合い、力をあわせて、見守りや助け合いの活動に取り組んでいただくための各支援を行いました。地域福祉委員会の活動を支援する担当職員（CSW＝コミュニティソーシャルワーカー 以下、「CSW」という）を地区担当制で配置したことにより、これまで以上にCSWが積極的に地域に出向き、全地域福祉委員会の活動の状況を掴むことができました。

また、市内の8社会福祉法人が連携し、市の福祉向上が更に発展することを目指していくため、のみ社会福祉法人連絡会の立ち上げに向けて1年間協議を続け、本会もこの連絡会に参加すると共に準備会の事務局を担いました。

市から受託した「生活困窮者自立相談支援事業」では、各制度の隙間にも入り込むような支援、当事者への傾聴等による寄り添い等信頼関係とアウトリーチ、そして他機関とのネットワークによる支援等に力を入れ、様々な課題を抱える生活に困窮する方に対して、一人ひとりの状況に合わせた支援を実施しました。一方、地域の中で、孤立、閉じこもり、未就労、離職から生活困窮状態につながっていく流れも見え、「ふれあい相談

員」が、町会長、民生委員・児童委員と連携し、市営住宅等を対象に閉じこもりの方々などの実態把握等、安否確認を進めているところです。

石川県社会福祉協議会（以下、「県社協」という）から受託した、「生活福祉資金貸付事業」では、3月25日に新型コロナウイルスの感染症の影響による休業や失業で生活資金にお悩みの方への生活福祉資金貸付制度の特例制度（緊急小口資金・総合支援資金）が実施されたことを受け、市民の生活を支えるための相談、申請の支援を行い、現在も引き続き、市民からの相談に対応しているところです。「福祉サービス利用援助事業」では、ケースを通じ、各地区のあんしん相談センター、医療機関、消費生活相談室、弁護士、福祉事務所、ハローワーク等の連携が更に進んだことや、事業の周知が少しずつ進み、相談支援事業所等からの相談も増えたことで、利用契約件数も伸びてきました。

一方、ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営では、今年度は災害時に設置される災害ボランティアセンターについて、石川県災害ボランティア協会や能美市民防災ネットワークと共に事前研修をし、運営体制の確認や運営のノウハウ等の知識を深めた成果を確認するため、運営訓練を行いました。

また、ボランティアグループへの助成に加えコミュニティ活動団体にも助成を広げ、市民の助け合い活動を支援しました。ファミリー・サポート・センターの運営では、仕事と子育ての両立に困難を抱える世帯に対し、互助の活動として会員の派遣と併せて傾聴、見守り等の支援も行いました。

寺井あんしん相談センターの運営については、今年度から市内3地区全域で、高齢、障がい、生活困窮等の包括的な相談を受ける体制が整いました。特に精神障害、アルコール中毒、8050問題、支援拒否など困難な課題を持つ相談が多く、寺井あんしん相談センターは、モデル地区の経験を活かし、個別支援や地域づくりに取り組みました。

能美居宅介護支援事業所については、人員配置による、より有利な報酬を得るための加算体制が整わず、苦慮した時期もありましたが、質の高いケアマネジメントを提供できるよう努めてきました。一方、くらしサポートセンターのみ、各地区あんしん相談センター等と連携を深めながら、困難ケースを積極的に受け入れ、社会福祉協議会の在宅サービスの一環として、地域の福祉に貢献することができました。

上記のとおり、市や県社協からの受託事業の「地域力強化推進事業」、「生活支援サービス基盤整備事業」及び「生活困窮者自立相談支援事業」等を軸としながら、ボランティア・コミュニティ活動支援センター、ファミリー・サポート・センターによる福祉教育、福祉意識の醸成、自助互助による助け合い、ふれあいの場づくりの各事業を展開してきました。年明け後の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月からは中止せざるを得ない事業も出てきましたが、ほぼ、計画どおり実施することができました。能美市が掲げる「共生社会の実現」の推進に寄与することができたことを報告します。

令和元年度における事業の状況は、次のとおりであった。

Ⅰ. 住民参加・住民主体で地域福祉を推進する社会福祉法人の運営

(1) 理事会、評議員会、各種委員会の開催

①理事会（6回）、評議員会（4回）、評議員選任・解任委員会（3回）、監査会（1回）をそれぞれ開催した。

会議名	開催回数	開催日	開催場所	案件
理事会	第 59 回	5 月 31 日	ふれあいプラザ	①平成 30 年度事業報告、会計計算書類及び財産目録の承認について（監査報告） ②評議員の選任候補者の推薦について ③第 6 回評議員選任・解任委員会の招集について ④任期満了にかかる次期役員候補者について ⑤第 57 回評議員会（定時評議員会）の招集について
	第 60 回	6 月 19 日	ふれあいプラザ	①会長の選定について ②副会長の選定について ③専務理事及び常務理事の選定について
	第 61 回	12 月 4 日	（書面表決）	①理事候補者の選定について ②評議員選任候補者の推薦について ③第 7 回評議員選任・解任委員会の招集について ④第 58 回評議員会の招集について
	第 62 回	12 月 18 日	ふれあいプラザ	①副会長の選定について
	第 63 回	2 月 26 日	（書面表決）	①理事候補者の選定について ②評議員選任候補者の推薦について ③第 8 回評議員選任・解任委員会の招集について ④第 59 回評議員会の招集について

	第 64 回	3 月 17 日	ふれあいプラザ	①令和 2 年度事業計画（案）及び 会計収支予算（案）について ②令和元年度会計収支 1 次補正予 算（案）について ③福祉サービスに関する苦情解決 の実施規程に基づく第三者委員候 補者の選考について ④第 60 回評議員会の招集につい て
評議員会	第 57 回 （定時評 議員会）	6 月 19 日	辰口福祉会館	①平成 30 年度事業報告、会計計 算書類及び財産目録の承認につい て（監査報告） ②次期役員の選任について
	第 58 回	12 月 18 日	（書面表決）	①理事の選任について
	第 59 回	3 月 13 日	（書面表決）	①理事の選任について
	第 60 回	3 月 24 日	ふれあいプラザ	①令和 2 年度事業計画（案）及び 会計収支予算（案）について ②令和元年度会計収支 1 次補正予 算（案）について ③福祉サービスに関する苦情解決 の実施規程に基づく第三者委員の 承認について
評議員選 任・解任 委員会	第 6 回	6 月 11 日	ふれあいプラザ	} 評議員の選任
	第 7 回	12 月 4 日	ふれあいプラザ	
	第 8 回	3 月 5 日	ふれあいプラザ	
監査会	5 月 20 日		ふれあいプラザ	平成 30 年度監査

- ・ 6 月 19 日（水）、辰口福祉会館で役員及び評議員合同懇談会を行い、理事、監事、評議員等 33 名が参加した。
- ・ 9 月 9 日（月）、役職員研修として、「いきがい・助け合いサミット in 大阪」（さわやか財団主催）に参加し、地域共生社会の実現に向けた最先端の考え方と取り組みの事例を研修した。理事・評議員、及び職員 21 名が参加した。
- ・ 第 3 次計画の推進委員会及び評価委員会等を開催した。

ア 推進のための委員会

- ・ こころに寄り添い合う人づくり委員会・・・10 回開催
- ・ 見守り・助け合い推進委員会・・・10 回開催

イ 進捗状況を確認し合うための委員会

・ ころ豊かな地域づくりの会・・・4 回開催

ウ 年度ごとの推進状況を評価するための委員会

・ 評価委員会・・・2 回開催

③ ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会を開催した（3 回）

④ ファミリー・サポート・センター運営委員会を開催した。（2 回）

⑤ 表彰審査会の開催（社会福祉功労者等表彰・能美たすかったわ～大賞・能美ぽかぽかフォトコンテスト）各 1 回開催

(2) 会員会費の募集

① 会員会費の募集（7・8 月推進月間）に取り組み、まちぐるみで地域福祉活動を進める気運を盛り上げた。・・・資料 1

(3) 社会福祉大会の開催

第 15 回記念能美市社会福祉大会を開催し、地域福祉活動に功績のあった個人や団体に社会福祉功労者等表彰を授与し、地域ぐるみの福祉意識の気運を盛り上げた。（第 12 回能美市民ボランティアフェスティバルと同日同会場開催）

ア 月 日 8 月 4 日（日）

イ 会 場 根上総合文化会館

ウ 社会福祉功労者等表彰を 26 名 15 団体に授与

エ 参加者 350 名

(4) 第 3 次能美市地域福祉活動計画の推進

第 3 次計画の推進 2 年目の取り組みを市民の参加と協力を得て委員会を構成し、推進した。各委員会による自己評価と 2 つの委員会がそれぞれ評価し合い、その結果と評価委員による評価をもって、評価委員会の総合評価としてまとめ、理事会・評議員会で報告を行った。

(5) 春 まちぽか プロジェクトの開催(2 月 22 日(土)～3 月 1 日(日)の 9 日間)→中止

第 3 次計画の推進 2 年目の報告及び、市民の地域福祉やボランティアの活動を紹介する機会として、春まちぽかプロジェクトと銘打ち、22 のプログラムで企画した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となった

① プルタブの換金による車いすの贈呈（学研ココファン辰口へ）

② 「能美たすかったわ～大賞」は、大賞 1 点、最優秀賞 3 点、小学生の部最優秀賞 5 点を表彰した。

③ 「能美ぽかぽかフォトコンテスト」は、ぽかぽか賞 1 点、あったか賞 2 点を表彰した。

(6) 福祉、ボランティア情報の発信

① 広報誌「ほほえみ」（年 4 回）ほほえみ 56 号から 59 号を発行した。

②地域福祉・ボランティア活動報告集を発行した・・・資料2

③ホームページ（アドレス <http://www.nomi-shakyo.jp/>）を随時更新し運営した。

(7)愛の福祉基金事業の実施

市民の善意による寄付金（12件総額517,991円）を愛の福祉資金として積み立てた。

II. 社会福祉関係者が一体となった地域福祉活動への支援

(1)福祉関係者が行う地域福祉活動への支援

〈地域福祉委員会〉

①	地域福祉委員会の設置にかかる助成	根上地区 21ヶ所 寺井地区 23ヶ所 辰口地区 47ヶ所	91ヶ所	総額910,000円を助成
	活動ヒント探し 講座入門編の開催	7月18日～10月25日 (月1回全4回)	地域福祉に対する理解のための入門的研修及び実習	16町(内)会より、講座受講修了者27名を地域福祉委員会活動推進員に登録した。 ※登録累計338名
	活動ヒント探し 講座実践編の開催	9月9日～11月19日 (月1回全3回)	各町(内)会・町内会で地域の課題把握のための手法として「住民流支え合いマップづくり」を実習(講師:住民流福祉総合研究所長 木原孝久氏)	地域福祉委員会活動推進員のいる町(内)会のうち10町(内)会26名が受講した。 ※中ノ江町、浜開発町、寺井町北町、小杉町、筋生町、徳久町、上清水町、北市町、坪野町、緑が丘7町会
	活動推進会議の開催	①6月5日 寺井地区公民館 地域福祉委員会活動連絡会 ②1月26日 寺井地区公民館 地域福祉セミナー	参加した活動の充実のための協議と情報交換の機会として開催 ※能美市の地域包括ケアシステム構築の体制、地域の助け合い活動についての	①193名参加 ②175名参加 これまでに実践編を修了した地域福祉委員会58町(内)会から

			基調講演（講師：同志社大学社会学部教授 永田祐氏）	
②	いきいきサロン活動への助成 ※いきいきサロンとは町(内)会、町内会単位で行われている高齢者等の閉じこもりの予防や見守りのつどい	根上地区	設置数 20 ケ所 延べ参加者数 7,807 名 延べボランティア数 2,325 名	開催回数 390 回
		寺井地区	設置数 21 ケ所 延べ参加者数 7,664 名 延べボランティア数 1,841 名	開催回数 477 回
		辰口地区	設置数 37 ケ所 延べ参加者数 6,076 名 延べボランティア数 1,726 名	開催回数 401 回
		会員会費を財源とし、いきいきサロン 78 ケ所へ、 総額 3,485,700 円を助成		
	一人暮らし高齢者昼食会への助成	地域福祉委員会（いきいきサロン）が自治公民館等を会場に開催する一人暮らし高齢者昼食会に対し、助成した。	実施町会 50 町会 参加者数 402 名 対象者 1 名あたり 700 円を助成、総額 281,400 円を助成	
	おでかけサロンへの助成	地域福祉委員会（いきいきサロン）で一人暮らし高齢者を含む参加者同士が、交流しながらおでかけする機会に対し、助成した。	実施町会 40 町会 実施回数 60 回 参加者数 1,448 名 1 町会年 3 回まで 6,500 円を助成、総額 390,000 円を助成	
③	いきいきサロンボランティア研修会の開催	テーマ：わが町らしいいきいきサロンについて考えよう 日時：2 月 28 日（金） 場所：寺井地区公民館	中止	
④	福祉推進員の委嘱と研修	任期 2 年で 127 名を委嘱（任期 令和 2 年 3 月 31 日まで） 福祉推進員の連絡会に向けた準備会 2 回を開催した。	活動費 1 人当たり 5,000 円、総額 635,000 円を助成	

⑤	地区担当職員 (CSW・ふれあい相談員兼ねる) 6名の配置(兼務) ※地区担当制	ア 各地域福祉委員会の運営、住民流支え合いマップづくり、地域福祉委員会アンケート調査等を支援した。開催の報告のあった地域福祉委員会の会合 632 回の内、要請に応じ CSW は 123 回出務した。 イ ふれあい相談員として、三ツ屋町市営住宅の要援護者の実態把握、(民生委員・児童委員の見守り安心マップの調査に同行)、能美資金の借入者の実態把握のための訪問、民生委員児童委員と共に歳末お見舞金の贈呈訪問等を行った。35 回出務した。
---	--	---

〈民生委員児童委員協議会〉

①市及び 3 地区の単位民児協の事務局を担当し、活動を支援した。

〈福祉団体、福祉活動グループ〉

①福祉団体(市・3支部の老人クラブ連合会、市・3支部の身体障害者福祉協議会、市母子寡婦福祉連合会)の各事務局を担当し、活動を支援した。

②地域福祉活動を推進するグループや団体の事務局を担当し、活動を支援した。

ア まだまだ元気な高齢者サポートグループほがらか会(会員数 35 名)

※ほがらか会は、能美市の総合事業の通所 B(住民主体の通いの場)にあたる活動

会員研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

ほがらか会の開催状況は以下のとおり

	施設名	開催日と開催回数	延べ参加者数	延べボランティア数
根上会場	白寿会館	毎週木曜日・44 回	345 名	175 名
寺井会場	亀齢荘	毎週金曜日・43 回	214 名	93 名
辰口会場	辰口福祉会館	毎週火曜日・42 回	242 名	85 名

イ 能美市民防災ネットワーク(委員 14 名) + オブザーバー 1 名

※町会・町内会、壮年団、婦人会、民生委員児童委員、防災士、子育て支援団

体等によるネットワークの会。防災意識の醸成や啓発、助け合いを基盤とした災害時の災害ボランティアセンターの周知などを目的とした活動を行う。

定例会 9 回

自主研修会 1 回(能美市社協と共催)

市民向け啓発研修会 1 回(春まちぽか P の中で開催) → 中止

〈福祉施設、福祉事業所等〉

①福祉施設のボランティア受入研修を企画した

日 時: 2 月 29 日(土)(春まちぽか P の中で開催) → 中止

会 場: ふれあいプラザ

講演会: 「認め合い 助け合って 明るい未来へ」

講 師: 大笑い福祉使・落語家 交遊亭楽笑氏

②市内社会福祉法人の連絡会設立に向けた準備会を開催した。

参加社会福祉法人(市内 8 社会福祉法人)

: 喜峰会、泰耀、湯寿会、なごみの郷、南陽園、陽翠水、佛子園、

(2)生活支援体制の基盤整備の推進(生活支援コーディネーター7名の配置)

①生活支援コーディネーターを7名配置した。

1層（市全体を単位とする）生活支援コーディネーター1名と2層（中学校区を単位とする）生活支援コーディネーター6名の計7名を配置し、毎月、生活支援コーディネーター連絡会を開催し、生活上の困りごとの把握や助け合い活動についての情報交換を行った。（2層の生活支援コーディネーターは、市社協地区担当CSW3名と3地区あんしん相談センター等の職員3名による6名）

②生活支援サービス推進協議体（委員15名）の運営と活動報告会を開催した。

生活支援サービス推進協議体（5回開催）の経過報告と、市民への啓発として、「生活支援の助け合い」についての事例を紹介する等の報告会を開催した。

日 時：2月22日（土）（春まちぽかPの中で開催）→中止

会 場：ふれあいプラザ

内 容：おまかせください！といえる地域づくりを目指して!!～車両の調達事例A・Bパターンで紹介します～

(3)ふれあいの場づくりの推進

①親子サロン（親子がふれあう場づくり）を開催した。

市内3会場で、就学前の子どもとその親・祖父母等が、気軽にふれあい、ほっとできるような集う場を運営した。子育て経験をもつ市民6名をスタッフとして雇用し、経験を活かしてママ友相談も併せて行うなど、企画運営をした。

	施設名（会場）	開催日と開催回数	延べ参加者数
根上会場	西二口町公民館 （西二口コミュニティセンター）	毎週水曜日・40回	285名・127組の親子
寺井会場	栗生町コミュニティセンター	毎週木曜日・40回	436名・204組の親子
辰口会場	岩内コミュニティセンター	毎週火曜日・39回	670名・319組の親子
通常の親子サロンの拡大版として年3回、絵本カフェやのみんな広場を開催した（カフェと絵本コーナー、ふれあいスペースの設置）			
・9月7日 G-Hillsで開催 60名参加			
・12月21日 ふれあいプラザで開催 90名参加			
・2月29日 春まちぽかPの中で開催→中止			

②ほっとあんしんサロン（介護をしている（していた）方々の思いを語り合う場づくり）を開催した。

介護者の日頃の介護に対する思い、老年期を迎える不安等について、思いを語り合う機会として、年9回、毎月第2水曜日にふれあいプラザで開催した。能美市介護を考える会の協力を得て開催、延べ参加者は79名であった。

③福耳ネット、ぬくもりサロン（聴覚・視覚等コミュニケーションに不都合な方がふれあい集う場づくり）を開催した。

④老人福祉センター（老人福祉センター「白寿会館」・寺井老人福祉センター「亀齢荘」）を運営した。運営状況は以下のとおり

サロン	開催日・開催回数	会 場	延べ参加者数	内 容
聴覚に不都合のある方のつどい：福耳ネット	第4水曜日 年10回	寺井地区公民館	48名	交流と情報交換 要約筆記サークル みみずくの協力
視覚に不都合のある方のつどい：ぬくもりサロン	9月30日（月） 10月28日（月） 11月28日（木） 12月23日（月）	ふれあいプラザ 西園寺 ふれあいプラザ ふれあいプラザ	30名	交流と情報交換 福祉ボランティア ほおずきの協力

	開館日数	延べ利用者数
白寿会館	257日	20,792名
亀齢荘	331日	33,722名
合 計	588日	54,514名

⑤ふれあい福祉交流会の開催（7月7日（日）根上総合文化会館円形ホール）

・・・資料3

能美市身体障害者福祉協議会、能美市手をつなぐ育成会、グループホーム連絡会による実行委員会形式で開催した。（準備会1回、実行委員会3回）

日 時：7月7日（日）

会 場：根上総合文化会館円形ホール

内 容：レクリエーションを通じた、ふれあい交流

参加者数：418名

⑥福祉バスの貸出

福祉バス1台を地域福祉委員会いきいきサロンが実施する一人暮らし高齢者等のおでかけサロンや、身体障害者福祉協議会の外出の支援等に貸し出し、外出の機会を支援した。計60回、貸し出した。

⑦でこぼこサロン（障がいの有無にかかわらず、地域でふれあい、交流する場づくり）を能美市地域福祉活動計画のところに寄り添い合う人づくり委員会と共に、企画、実行した。

① でこぼこサロン

月 日：11月14日（木）

場 所：就労支援施設サンサポートさらだ

内 容：ボッチャ（障害の有無に関わらず、誰もが参加できる軽スポー

ツ) を通した交流と意見交換

参加者数：33 名

②心に寄り添い合う人づくり講座

月 日：2月8日（土）

場 所：能美地域活動支援センターはまかぜ

内 容：当事者の方のお話を聞き思いに寄り添い、かかわり方について
考え、理解を深めた。

参加者数：43 名

(4)見守りネットワークや生活支援活動の推進

①歳末お見舞金を贈呈した。

民生委員児童委員協議会と CSW が連携し、歳末時に各種福祉手当の受給者や施設入所者、生活に困窮している方々等にあたたかいお正月を迎えて頂くために、訪問し、お見舞金を贈呈した。また、毎月実施している「ふれあい弁当」を12月に「おせち風弁当」にし、福梅も添え、お正月の雰囲気味わっていただいた。

実施期間：12月6日～12月31日

贈呈金額：総額 1,535,000 円（一律 5,000 円） 307 件

②ボランティアによる手づくりお弁当を配達し、見守りを行った。（市内3会場にて調理）民生委員児童委員協議会等と連携し、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、障がいのある方、産前産後の方のいる世帯等に対し、1食200円で月6回、ボランティアによる手づくりお弁当を配達し、見守りをした。

ふれあい弁当の実施 ※ボランティアによる手作り弁当をボランティア等が届け、 ことを通じて、地域の見守りの機会とした。民生委員・児童委員、福祉推進員、ボランティア等の協力を得て実施	根上地区	月2回（第2・第4金曜日）	20回開催
		延べ提供食数	200食
		延べ協力ボランティア数	294名
	寺井地区	月2回（第1・3水曜日）	20回開催
		延べ提供食数	483食
		延べ協力ボランティア数	353名
		（寺井高校 JRC 部 10名含む）	
	辰口地区	月2回（第2・4火曜日）	19回開催
		延べ提供食数	338食
		延べ協力ボランティア数	473名
	子育て応援弁当として、産前～産後2ヶ月までのママとその家族に届け、子育てを応援した。（要件有）		
		基本月6回計	59回開催
		利用実人数	29名
		延べ提供食数	804食

	学習応援弁当として、小学校 4～6 年生と中学校 3 年生の夏休みにあわせた学習支援の場に、手作り弁当を届け、応援した。 (要件有)
	実施回数 年 3 回
	利用実人数 13 名
	延べ提供食数 24 食
	「ひな弁当・もみじ弁当」とし、市内 3 中学校のボランティア活動の機会とし、一人暮らし高齢者等宅に手作りお弁当を届け、友愛訪問とした。
	根上中学校 2 月 14 日実施 25 名参加
	寺井中学校 11 月 20 日実施 48 名参加
	辰口中学校 3 月 10 日実施 中止

③視覚障害のある方への広報「のみ」等の音訳テープを提供した。

音訳テープの提供	視覚に不都合のある方に対し、音訳ボランティアたんぽぽの協力を得て、広報のみ、議会だより、社協広報誌ほほえみ、ボランティア情報誌ボラはあとをテープに音訳、提供した。	利用者 4 名 その他図書館などへ提供
----------	---	------------------------

④一人暮らし高齢者等への傾聴ボランティアを派遣した。

傾聴ボランティアの訪問	石川県が、H23 年度に開催した傾聴ボランティア養成講座の受講修了生が、能美市で傾聴ボランティアとして登録、活動した。 また、傾聴ボランティア「うなづき」として、年間 2 回のフォローアップ講座や市民向けの啓発講座開催に協力した。	訪問対象者は 6 名（一人暮らし高齢者等） 登録した傾聴ボランティアは 32 名 年間 52 回訪問
-------------	--	--

⑤子育て応援ヘルパーを派遣した。

子育て応援ヘルパーの派遣（利用要件有）	産前の体調不良の時期、または産後間もない時期等に家族から支援を受けられない方等に対し、母子保健コーディネーターと連携し、家事や育児の手伝いを行う子育て応援ヘルパーを派遣した。	ヘルパー登録人数 25 名 利用実人数 6 名 延べ利用日数 85 日
---------------------	---	---

（５）生活困窮者への支援

CSW が、NPO 法人等と協力し、見守りと生活実態を把握しながら必要な方々に食糧の支援を行った。〈くらしサポートセンターのみで再掲〉

（６）支え合いの地域づくり啓発事業

第 15 回記念能美市社会福祉大会で、参加者に対し、支え合いの地域づくりを推進するマスコットキャラクター「のみんちゃん」や「愛ちゃんと希望くん」等を記載したエコバックを配付した。（共同募金財源による）

Ⅲ. 福祉意識の醸成のための福祉教育の推進と住民の互助活動の支援

(1) ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営

ボランティア・コミュニティ活動支援センターを運営し、福祉の人づくりや地域づくりを進めた。(ホームページ 能美市ボランティア・コミュニティ活動支援センター(<http://nomi-vc.net>) の運営やボランティアセンターだより(毎月1回)を発行し、ボランティアに関する情報を発信した。

① ボランティアに関する相談窓口

〈登録〉 100 グループ 3,834 名 (R2.3.31 現在)

〈相談・斡旋〉 52 件

	斡旋先 相談の内容	地域福祉委員会 いきいきサロン	福祉 施設	保育園 学校等	企業 団体	その 他	件数 合計
1	イベントにかかる活動	25	4	1	3	1	34
2	高齢者・障害者への支援 にかかる活動				3	2	5
3	子育て支援にかかる活動					1	1
4	福祉教育にかかる活動			5			5
5	環境保全にかかる活動						
6	国際交流にかかる活動						
7	その他	1	2		1	3	7
	合 計	26	6	6	7	7	52

〈ボランティア機材の貸出〉 140 件

	貸出先	機 材	件数
1	町(内)会の夏祭りや地域福祉委員会いきいきサロン	綿菓子・ポップコーン・かき氷製造器・プロジェクター、ストラックアウト等	68
2	要介護者の移動	車いす	1
3	学校等での福祉体験	車いす	6
4	ボランティアグループの活動	アンプ、マイク、DVD	26
5	その他		39
	合 計		140

〈各種の収集窓口(ボックス)の設置〉

老人福祉センター「白寿会館」、老人福祉センター「亀齢荘」、G-hills、ふれあいプラザに収集窓口としてボックスを設置した。

収集物	収集取扱い団体	送付先	用途
エコキャップ	障害者サービス事業所「一歩」	日本委員会(JVC) ～世界の子どもにワ クチンを～へ	エコキャップ860個で子 供1人のポリオワクチン になる。

		積水樹脂株式会社へ	細かく粉砕し、リサイクル製品に生まれ変わる。
プルタブ	能美市社会福祉協議会 ボランティア・コミュニティ活動支援センター	R元年度に集めたプルタブは、合計 488 kg 金属廃品回収業者に売却、換金し、施設等に車いすを購入するための資金として積み立てた。	
ベルマーク	ボランティアグループ 「山ぼうしの会」等	ベルマーク財団へ	ベルマークは1点1円になる。一部は発展途上国の教育支援に使われ、一部が集めた地域の学校教育備品の購入に使われる。
使用済インクカートリッジ	石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター	キャノン・エプソン・リコーなどの企業へ	使用済インクカートリッジの回収を通じて、ベルマーク運動に参加。使途はベルマークに同じ。
古切手、書き損じハガキ		公益財団法人ジョイセフ（家族計画国際協力）へ	アジア・アフリカ中南米の発展途上国の保健活動（予防接種や保健師の活動）の助成に使われる。
使用済プリペイドカード等			

②ボランティア講座の開催

各種ボランティア講座を開催し、ボランティアへの関心を掘り起こし、その活動を支援した。

事業（講座）名	実施月・回数	参加人数	内 容
ジュニアボランティア クラブ・・・資料4	10～12月 (全6回)	計20名 延べ73名	市内で活動するボランティアグループや福祉施設等の協力を得て、小学生と高齢者とのふれあいボランティア体験を実施した。
中学生ボランティア チャレンジ体験	7月～8月 (全4回)	延べ234名	中学校生徒会が連携し、意見交換会を開催(6月4日)、自分たちで体験の企画をした。 ①根上中学校(8月3日) 「We are 松々レンジャーズ！！大きな松を育てマツ」 ②寺井中学校(7月24日) 「ふだんのくらしのしあわせに寄りそう会～咲かせよう笑顔の花～」 ③辰口中学校(7月27日) 「辰口クリーンプロジェクト」

			④「第12回能美市民ボランティアフェスティバルの運営スタッフ体験」 (8月4日)
高校生ボランティア チャレンジ体験	7月 (全1回)	延べ4名	①「福耳ネットの皆さんと手話等で 交流しよう(体験)(7月31日) ※石川県社協サマーボランティア体 験にあわせて実施
企業ボランティアセ ミナー	2月18日	日本郵便能美部会 44名 聴覚に障がいのある人とのコミュニケーション について(講師:新田照予氏)	

③ボランティア保険加入を助成した。

ア ボランティア保険 2,679人 総額937,650円

A保険に加入(掛金350円 市社協150円と県社協が200円を負担)

そのうち、災害ボランティア保険に1名加入 200円を助成

イ ボランティア行事用保険 54件 総額113,009円

A保険とB保険(宿泊を伴う行事)に加入

④ボランティアグループ及びコミュニティ活動団体に助成した。(要件有)

7グループと5活動団体に計604,000円を助成した。(共同募金財源による)

能美マジック教室(50,000円)、手話サークルゆず(50,000円)、粟生町歩歩笑
美くらぶ(30,000円)、JA能美ボランティアグループ(24,000円)、のみ・子育てネ
ットワーク(50,000円)、長野民舞会(46,000円)、和気小学校図書ボランティア
(4,000円)、市民活動団体みんな食堂(100,000円)、能美市商工まちづくり研究会
(50,000円)、認定NPO法人えんがわ(50,000円)、東レOB支援隊(50,000円)、小
松おやこ劇場(100,000円)

⑤ボランティア連絡協議会の活動助成と活動を支援した。(共同募金財源による)

能美市ボランティア連絡協議会(市・3地区)の活動を事務局として担当、支援
した。(能美市ボランティア連絡協議会情報誌「ボラはあと」の年2回発行支援
含む)

⑥福祉協力校に指定、活動助成をした。

ア 市内7小学校、3中学校、1高等学校を対象とし、総額780,000円を助成
した。(うち、浜小、宮竹小は県社協の福祉協力校の指定)

イ 福祉協力校連絡会を開催した。

日時: 7月29日(木) 9時30分~11時30分

会場: ふれあいプラザ

参加者: 30名

講演: 「地域に生きる様々な人々を心に住ませる」

講師: いしかわ県民教育文化センター理事長 金森俊朗氏

ウ 福祉協力校における福祉教育カリキュラムなどに情報提供するなどし、支援

した。(講師の派遣、情報提供)

⑦ボランティアセンターだよりを発行した

ア 社会福祉協議会広報誌ほほえみに併せ、年4回発行した。

イ ボランティアだよりを毎月発行、市内の公共機関やスーパー等に配付した。

⑧災害ボランティアセンター運営にかかる研修や訓練を行った。

能美市民防災ネットワークや関係者の参加と協力を得て、市防災計画及び個別マニュアルの読み合わせ、具体的な災害ボランティア活動の研修及び、実際に運営を想定した訓練を開催した(9月～11月 全4回)

⑨第12回能美市民ボランティアフェスティバルを開催した・・・資料5

ア 8月4日(日) 根上総合文化会館 約1,000名の参加

イ 実行委員会開催数は10回(準備会、報告集編集委員会含む)、実行委員会委員数は52名、参加団体数は84団体

⑩喫茶「あい・テラス」を年1回開催した。

ア 8月4日(能美市民ボランティアフェスティバルに併せて実施)

イ ボランティア体験、ボランティア活動報告、福祉施設利用者の作品展示と販売、能美市内小中学校のボランティア活動体験の掲示、障がいのサービス事業所による喫茶コーナーやパン・ケーキの販売などを行った。

(2)ファミリー・サポート・センターの運営・・・別記11 18ページ

IV. 生活上の多様な問題の相談窓口の開設

(1)寺井あんしん相談センター(寺井高齢者支援センター)の運営・・・別記2 22ページ

(2)くらしサポートセンターのみの運営・・・別記3 26ページ

V. 居宅介護支援事業所の運営及び生活援助サービスの提供

(1)能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所の運営・・・別記4 29ページ

(2)福祉移送サービス事業の運営

公共交通機関を利用しにくい方の移動を車いす対応車で支援した(要件有)

当該年度末登録者数	18名
延べ利用回数(片道を1回とする)	154回
稼働実日数	75日

**(3)生活支援たすけあい・ライフサポーター(介護予防・日常生活支援サービスのうち、訪問
B(住民主体による援助))の派遣**

- ア 1～5 期受講修了生による「たすけあい・ライフサポーターえがお会」(会員 48 名)の定例会、研修会等、その活動を支援した。
- イ 依頼に応じて「たすけあい・ライフサポーター」を派遣した。(実利用者数 8 名 派遣回数 延べ 265 回)

1. 総括

平成20年度の開設当初から現在に至るまで、依頼会員は4.8倍に増えたのに対し、協力会員の増加率は、その半分以下にとどまっている。需要があるため、利用会員は年々伸びているが、提供会員は伸び悩んでいる。依頼会員の増加に伴い、送迎の依頼が増加し、特に習い事への送迎が前年度より5倍に、保育園への送迎も2倍と件数が増えている。又、精神面で不安定な依頼会員のケースでは、預かる協力会員の手配に苦慮する場合もある。

協力会員の増加を目的に、例年、市広報、市内施設でポスター掲示やチラシの配布などで周知を行ったり、これまで、年1回だった会員向けの講習会を、平成29年度から、前期・後期の2回に増やすなどしているが横ばいの状況が続いている。

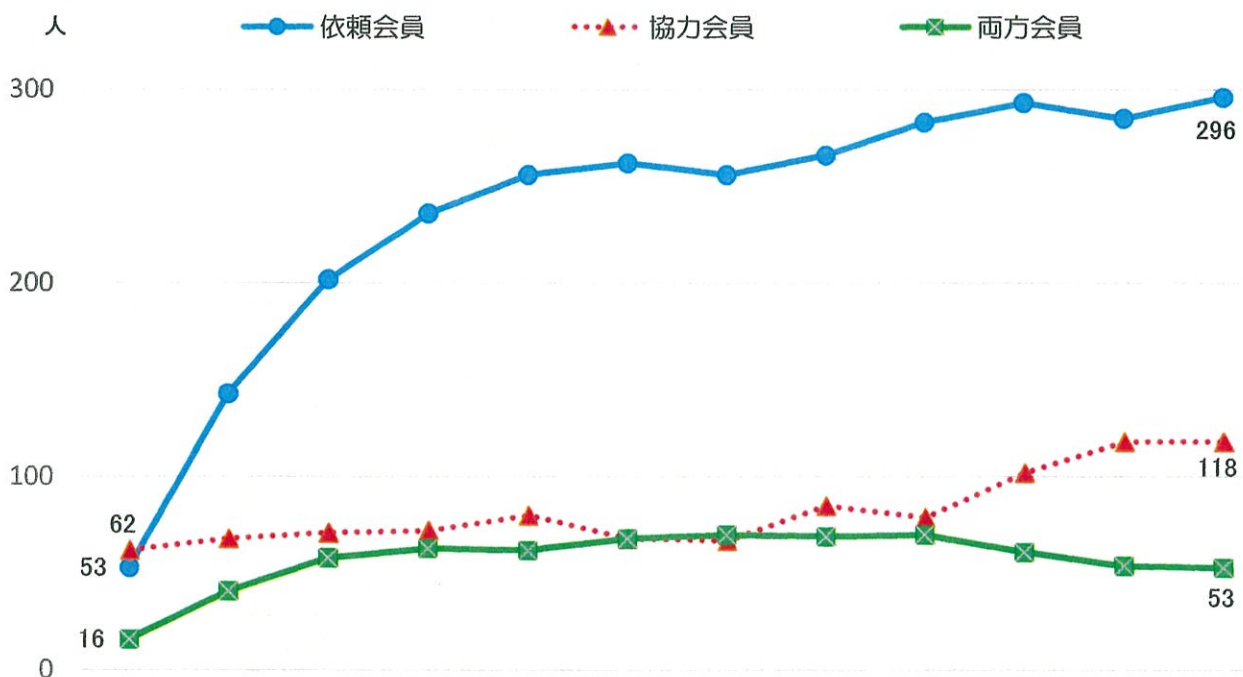
ファミサポ事業は、協力会員がいなければ成り立たない事業であるため、多様なニーズを受けとめるには、まずは協力会員の増員が不可欠と考える。今後も地域とのつながりを持つ機会と考え、工夫・努力に努めたい。

2. 事業状況

- ① 会員の募集・登録 相互援助活動の調整
- ② 講習会・フォローアップ研修会等の開催
- ③ 会員交流会の開催
- ④ ファミサポ通信の発行（年1回）

3. 令和元年度 ファミリー・サポート・センター活動報告

① 登録会員数の年度別推移



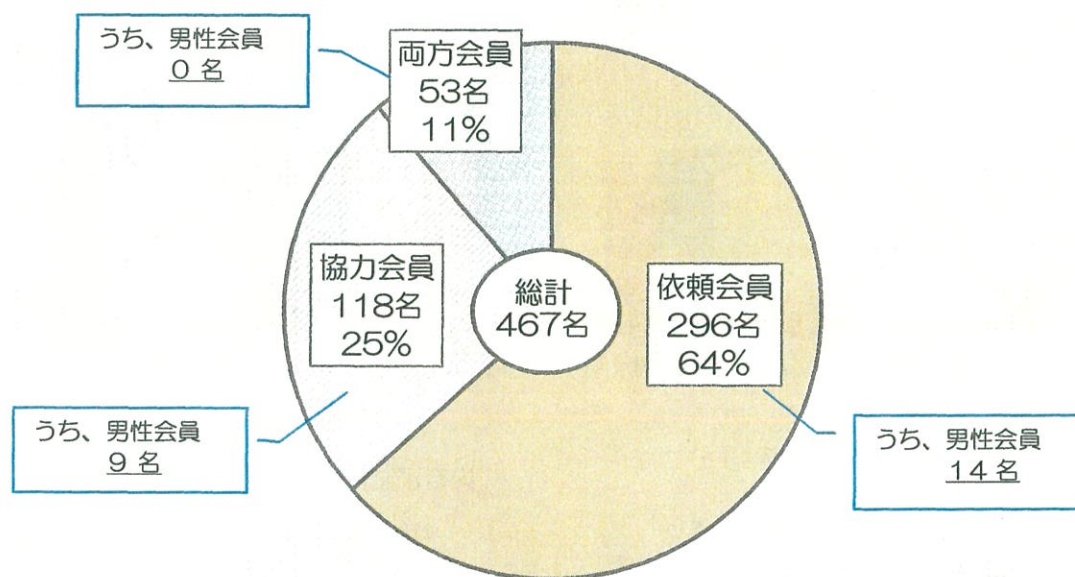
	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
依頼会員	53	143	202	236	256	262	256	266	283	293	285	296
協力会員	62	68	71	72	80	68	67	85	79	102	118	118
両方会員	16	41	58	63	62	68	70	69	70	61	54	53
合 計	131	252	331	371	398	398	393	420	432	456	457	467

② 会員割合

現在、会員数は 467 名。

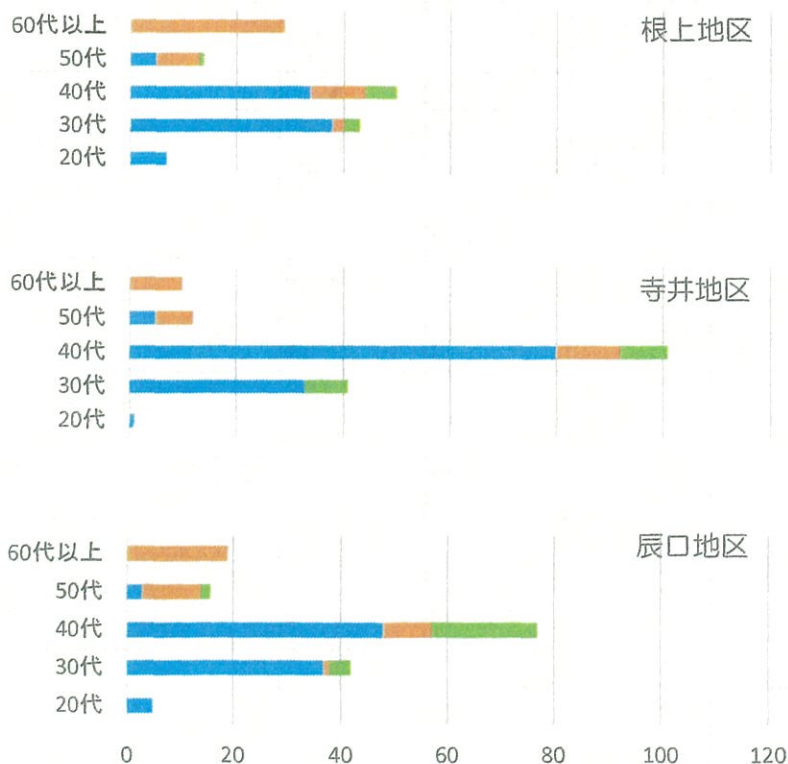
もっとも多いのが、依頼会員の296名（64%）で割合は年々増加している。協力会員は118名（25%）で横ばい。また、両方会員も、53名（11%）であり、協力会員・両方会員共に依頼会員の半数にも達しておらず、横ばいの状況が続いている。

また、男性会員は、依頼会員14名（全体の3%）協力会員は9名（全体の2%）にとどまっている。



③ 地区別・年代別会員数

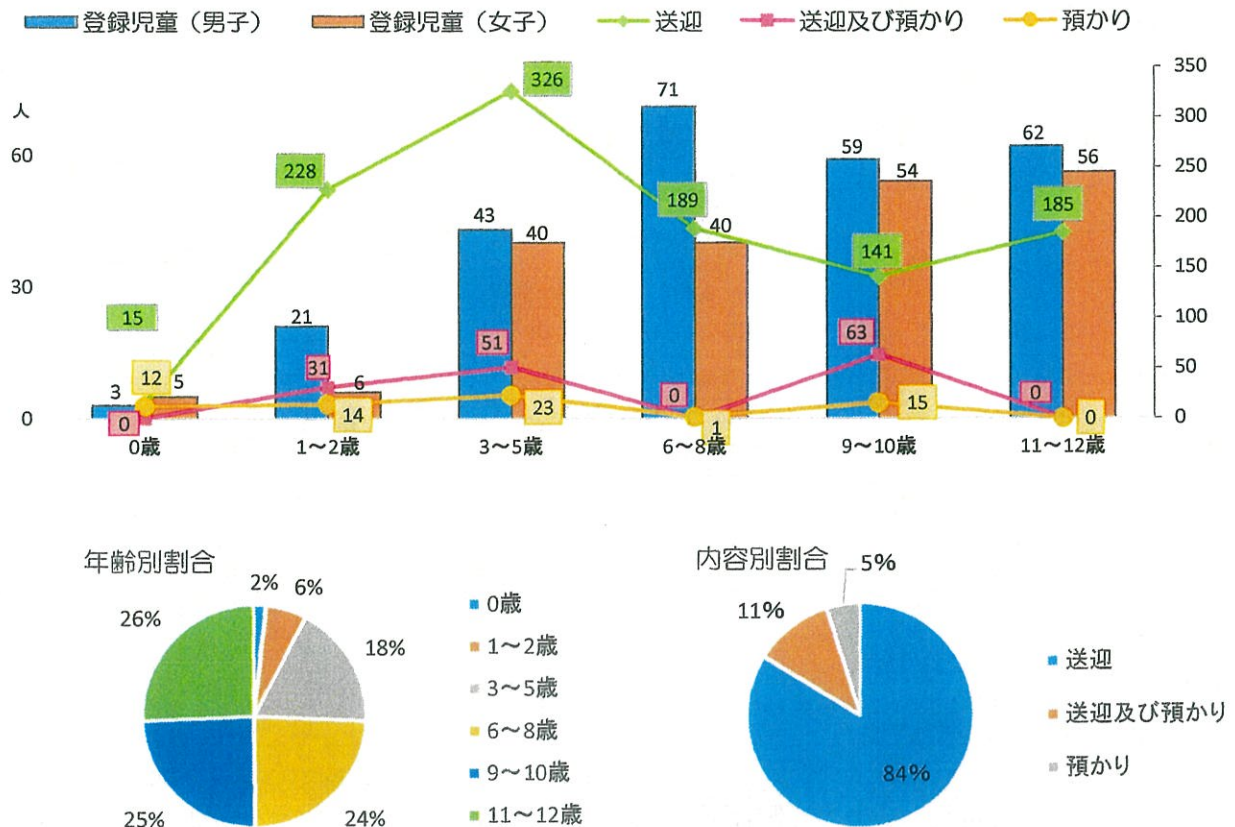
年代別のグラフで見ると、30代40代の会員数は多いが、依頼会員が全体の半数以上を占めており、協力会員は、全体の2割程で、年齢の高い層に集中していることがわかる。地区別で見ると、依頼会員に対する協力会員の割合は、3地区でバラツキが見られる。



地区別	会員種別	20代	30代	40代	50代	60代以上	総計
根上	依頼	7	38	34	5	0	84
	協力	0	2	10	8	29	49
	両方	0	3	6	1	0	10
	小計	7	43	50	14	29	143
寺井	依頼	1	33	80	5	0	119
	協力	0	0	12	7	10	29
	両方	0	8	9	0	0	17
	小計	1	41	101	12	10	165
辰口	依頼	5	37	48	3	0	93
	協力	0	1	9	11	19	40
	両方	0	4	20	2	0	26
	小計	5	42	77	16	19	159
総計		13	126	228	42	58	467

④ 子どもの年齢構成と依頼件数 及び活動内容別件数

子どもの年齢構成をみると、小学1年生から6年生まで（6～12歳）の割合が全体の約7割以上を占めているが、依頼件数では、1～2歳 273件（21%）、3～5歳 400件（31%）と未就学児の割合が高く、1歳以上は、送迎が急激に増加していることがわかる。依頼のあった活動内容詳細の上位は「保育園・幼稚園の送迎」、「障害を持つ子供の送迎」、「子供の習い事等の場合の援助」、「学童クラブの送迎」となっている。



活動内容別件数

活動内容	平成30年度 総計①	令和元年度 総計②	差 (②-①)	備考
保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	74	0	▲ 74	
保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	100	82	▲ 18	
保育園・幼稚園の送迎	249	569	320	新規依頼、兄弟で利用が増えた。
学校の送迎	50	20	▲ 30	
学校の放課後の預かり	0	0	0	
学童クラブの送迎	217	119	▲ 98	
学童クラブの迎え及び帰宅後の預かり	73	63	▲ 10	
子供の病後児の送迎	0	3	3	
子供の病後児の預かり	0	0	0	
子供の習い事等の場合の援助	26	148	122	新規依頼が増えた。
保育所・学校等休み時の援助	0	0	0	
保護者等の就労の場合の援助	6	48	42	新規依頼、兄弟で利用が増えた。
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	0	0	0	
保護者等の冠婚葬祭による外出 他の子供の学校行事の場合の援助	0	2	2	
保護者等の外出の場合の援助	30	11	▲ 19	
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	0	1	1	
障害を持つ子供の送迎	255	210	▲ 45	
障害を持つ子供の預かり	0	0	0	
その他の送迎	0	15	15	
その他の預かり	22	3	▲ 19	
合 計	1,102	1,294	192	

⑤ 協力会員養成講座及びフォローアップ研修

新規会員及び既存会員向けに、子育て支援に関する適切な知識や技術を学ぶ機会を設け、養成講座を年2回開催。安心・安全な支援活動の広がりにつなげている。

(※平成29年度より、救命救急講習が必須科目に、令和元年度より、事故防止に関する講習が必須科目となっている。)

		時期	時間	内 容	場 所	講 師	参加人数
養成講習 前期	1	7/3(水)	9:00～12:00	子育て支援の意義と役割について	能美市 ふれあい プラザ	石川県南加賀 保健福祉センター 所長 沼田 直子氏	7
			13:00～16:00	子どもの心と身体の発達と その問題について			4
	2	7/4(木)	10:00～11:30	子どもの病気 「こんな時どうするの？」 ※子育て支援センター主催の育児講座		多賀クリニック小児科 多賀 千之先生	5
	3	7/8(月)	10:00～12:00	子育ての社会的支援について		金城大学 短期大学部 幼児教育学科 教授 和泉 美智枝 氏	7
	4	7/9(火)	10:00～12:00	育児の支援について (講義及び実習) ～沐浴のさせ方、ミルクの与え方～		健康推進課 職員	1
	5	7/11(木)	10:00～12:00	子どもとの関わり方について		子ども発達 支援センター職員	8
	6	7/12(金)	9:00～12:00	救命救急講習会		能美市消防本部職員	8
			13:30～15:30	実際の活動における安全対策と 留意点についての説明と交流会		能美市ファミリー・サポ ート・センター職員	3
養成講習 後期	1	10/28(月)	9:00～10:00	ファミサポ・子育て応援ヘルパー 事業説明	能美市 ふれあい プラザ	健康推進課及び 能美市ファミリー・サポ ート・センター職員	7
			10:00～12:00	育児の支援について (講義及び実習) ～沐浴のさせ方、ミルクの与え方～		健康推進課 職員	
	2	10/30(水)	13:30～15:30	子どもとの関わり方		子ども発達 支援センター職員	8
	3	11/6(水)	10:00～12:00	子育ての社会的支援		金城大学 短期大学部 幼児教育学科 教授 和泉 美智枝 氏	6
	4	11/7(木)	10:00～12:00	子育てアドバイス 「ありがとういっぱい運動」 ※子育て支援センター公開講座		多賀クリニック小児科 多賀 千之先生	8
	5	11/11(月)	9:00～12:00	救命救急講習会		能美市消防本部職員	8
フォローアップ 研修	1	1/29(水)	10:00～12:00	子育て支援の意義と役割	能美市 ふれあい プラザ	石川県南加賀 保健福祉センター 所長 沼田 直子氏	15
	2	1/30(木)		子どもの心と身体の発達と その問題について			14
	3	2/7(金)		精神・発達障害についての 基礎知識と関わり方		金城大学 短期大学部 幼児教育学科 教授 和泉 美智枝 氏	11
	4	2/14(金)		安心安全に支援するために (リスクマネジメント)		能美市ファミリー・サポ ート・センター職員	11

⑥ 会員 交流会及び普及啓発

ファミリー・サポート・センター及び、市内3地区で開催している親子サロンの周知・交流を目的に、毎年開催。

内 容	日 時		場 所	参加人数
ミニ運動会	6/4(火)	10時～11時15分	寺井中央児童館	92名
絵本カフェ (春まちばかばか プロジェクト)	9/7(土)	10時～14時	能美市子育て支援センター	60名
	12/21(土)		共生型福祉施設 G-Hills	90名
	2/29(土)		能美市子育て支援センター	コロナウイルスにより 中止

【能美市寺井あんしん相談センターの運營業務報告】

1. 総括

高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者などの総合相談窓口の拠点となれるよう、あんしん相談センターの事業の運営を能美市より受託し、相談に応じ、支援した。また、自立支援・重症化予防を基本とした介護予防プランの作成及び、能美市地域包括ケアシステムの構築を推進した。

2. 事業状況

① 総合相談支援業務

- ア 高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者などの相談に応じ、関係機関に繋いだ。
- イ 複数の課題を抱える世帯に対し、関係機関と連携、課題を共有すると共に、必要に応じてケア会議を開催し、課題解決に向けての支援の方向性を検討した。

② 権利擁護業務

- ア 成年後見制度・権利擁護に関する相談に応じ、成年後見制度の利用やくらしサポートセンターのみと連携し福祉サービス利用援助事業の利用に繋げた。
- イ 虐待通報がされにくい中、総合相談の段階からアンテナを立て、早期発見を心掛け、成年後見制度の相談等も併せて、権利侵害の防止や早期対応に努めた結果、能美市の虐待判定会議で5件が判定され、虐待対応計画に基づいて、センターで支援した。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援

- ア 各地区あんしん相談センターが連携し、ケアプラン会議を開催、自立支援を目的としたプランの検討及びプランを作成する介護支援専門員に対し支援・指導をした。また、介護支援専門員が相談しやすい対応を心がけ、困難事例を一人で抱え込まないよう支援し、処遇困難事例検討会に繋げるなどした。
- イ 地域における連携・協働の体制づくりのため、地域ケア会議を手法とし、個人や地域の課題を発見し、地域づくりに繋がるよう話し合いをした。また、民生委員や町会長等の地域の方と、医療や介護の専門職、CSW など多職種の関係機関とのネットワーク作りを推進した。

④ 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント支援業務

- ア 要介護者や事業対象者が、主体的に介護予防・自立支援に取り組むために、自己選択、決定できるよう配慮しながら介護予防プランを作成し、支援した。
- イ 一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業である、「おげんき倶楽部のみ」や「のみ活倶楽部」、地域で開催される「いきいきサロン」等にも出向き、参

加者の状況を把握するとともに、介護予防の普及啓発に取り組んだ。

⑤ 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み

- ア 地域生活医療コーディネーター、第二層生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、地域ケア会議関係にそれぞれ担当職員を配置するとともに、在宅医療と介護連携の充実を推進する専門部会「メモリーケア・ネットワーク能美」、地域での支え合いを検討する専門部会「能美市生活支援サービス推進協議体」に参加し、積極的に課題に取り組んだ。
- イ 寺井地区を単位とした日常生活圏域会議を 1 件、町会や関係機関を単位とした課題別検討会議を 73 件、個別のケースに関する関係者が参加するネットワーク会議 35 件と障がい者の地域ケア会議 3 件の計 38 件開催した。日常生活圏域会議ではあんしん相談センターの活動報告と寺井地区の交流や社会参加の場について話し合いをした。
- ウ 地域での出前講座 8 件、認知症サポーター養成講座 2 件を開催し、認知症への理解や介護予防に対する啓発、理解を広げた。

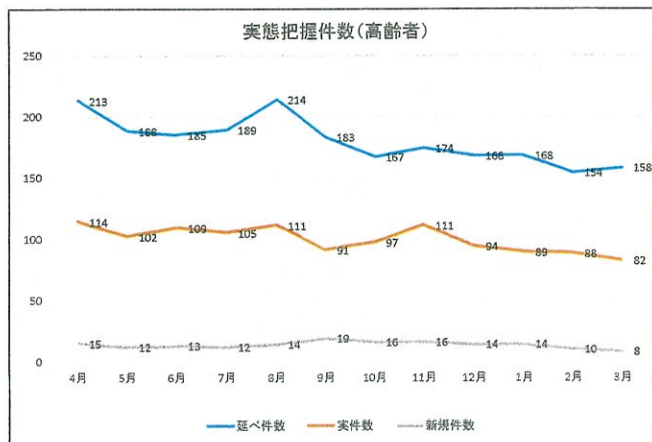
⑥ 職員の資質向上

石川県、能美市、各職能団体等が実施している研修会に積極的に参加した。研修参加後は復命書を回覧することでセンター職員全員が共有し、必要な知識や技法等の取得に努めた。

令和元年度 能美市寺井あんしん相談センター 実績報告

1. 実態把握件数（高齢者）

	延べ件数	実件数	新規件数
4月	213	114	15
5月	188	102	12
6月	185	109	13
7月	189	105	12
8月	214	111	14
9月	183	91	19
10月	167	97	16
11月	174	111	16
12月	168	94	14
1月	168	89	14
2月	154	88	10
3月	158	82	8
合計	2,161	1,193	163



2. 実態把握・相談の状況（高齢者）

	窓口	電話	訪問	その他	合計
4月	44	98	64	7	213
5月	35	92	61	0	188
6月	44	90	49	2	185
7月	48	85	52	4	189
8月	40	112	62	0	214
9月	42	101	37	3	183
10月	38	77	47	5	167
11月	40	68	54	12	174
12月	40	60	46	22	168
1月	42	72	45	9	168
2月	43	65	46	0	154
3月	41	77	40	0	158
合計	497	997	603	64	2,161

3. 地域活動支援・出前講座の状況

	地域活動支援	出前講座	認知症サポーター養成講座
4月	6	0	0
5月	3	0	0
6月	6	1	0
7月	5	0	0
8月	4	0	0
9月	7	0	0
10月	5	2	1
11月	5	1	1
12月	4	3	0
1月	1	0	0
2月	7	1	0
3月	0	0	0
合計	53	8	2

4. 地域ケア会議（高齢者を含む障がい者、困窮者等）

	日常生活圏域会議	課題別検討会議	ネットワーク会議
4月	0	5	3
5月	0	4	4
6月	0	7	1
7月	0	7	4
8月	0	7	3
9月	0	7	3
10月	0	8	3
11月	0	5	1
12月	1	7	0
1月	0	7	4
2月	0	4	2
3月	0	5	7
合計	1	73	35

5. 連絡調整業務の状況

	介護認定申請受付	高齢者福祉に係る受付	住宅改修・福祉用具に係る受付
4月	24	7	4
5月	20	3	7
6月	23	4	9
7月	26	6	3
8月	22	2	2
9月	12	7	7
10月	21	4	11
11月	19	3	10
12月	19	0	8
1月	19	0	7
2月	16	0	12
3月	14	14	4
合計	235	50	84

6. 介護予防支援

	直営プラン	外部委託 プラン	委託料支払 額 (A)	合計プラン 件数	合計収入額 (B)	(B)－(A)
4月	15	39	168,230	54	247,200	78,970
5月	14	37	150,590	51	219,300	68,710
6月	17	39	162,530	56	255,800	93,270
7月	17	42	174,740	59	259,700	84,960
8月	16	41	168,770	57	248,100	79,330
9月	15	42	178,810	57	248,100	69,290
10月	17	44	178,910	61	271,900	94,990
11月	18	47	191,290	65	289,150	97,860
12月	18	46	191,020	64	284,840	93,820
1月	18	43	175,010	61	265,910	90,900
2月	18	44	180,980	62	276,220	95,240
3月	16	45	185,050	61	268,910	83,860
合計	199	509	2,103,930	708	3,135,130	1,031,200
前年度	189	440	1,834,500	629	2,785,700	951,200

7. 介護予防ケアマネジメント

	直営プラン	外部委託 プラン	委託料支払 額 (A)	合計プラン 件数	合計収入額 (B)	(B)－(A)
4月	19	10	33,220	29	93,800	60,580
5月	16	9	28,920	25	71,400	42,480
6月	17	10	34,890	27	83,300	48,410
7月	17	8	24,850	25	76,300	51,450
8月	16	9	28,920	25	70,300	41,380
9月	17	8	24,850	25	74,700	49,850
10月	19	7	20,780	26	76,460	55,680
11月	17	9	27,750	26	79,170	51,420
12月	17	10	33,720	27	84,880	51,160
1月	16	12	41,860	28	90,500	48,640
2月	15	10	31,820	25	75,880	44,060
3月	11	11	38,960	22	72,300	33,340
合計	197	113	370,540	310	948,990	578,450
前年度	175	151	519,180	326	1,041,300	522,120

8. 介護予防ケアマネジメント 内訳

	スマイルヘル パー・スマイル デイサービス	健康ライフ教 室・健康ライ フ訪問リハビリ	あんしんサ ポーター・は つらつデイ サービス	たすけあい サポーター・ほ がらか会
4月	8	12	4	5
5月	8	7	5	5
6月	9	7	5	6
7月	7	6	6	6
8月	7	6	6	6
9月	7	7	5	6
10月	6	9	5	6
11月	7	9	5	5
12月	8	10	5	4
1月	10	9	5	4
2月	8	8	5	4
3月	10	5	7	0
合計	95	95	63	57

9. 障がい者や生活困窮者の相談の状況

	業務内容	件数
1	障がい者の相談（延）	189
2	生活困窮の相談（延）	68
3	支援チーム会議参加、地域ケア会議開催	14
4	地域ケア会議開催	3

【くらしサポートセンターのみ 事業報告】

1. 総括

生活困窮者自立相談支援事業を軸として、福祉サービス利用援助事業、生活福祉資金貸付事業、弁護士無料相談等を行い、社会的孤立者や経済的に困窮する恐れのある者が困窮状態から早期に脱却することを目標に、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援を実施した。

相談支援員は、各種研修に積極的に参加し、スキルアップに努めると共に様々な機関との連携構築を図り、支援の幅の拡大に繋げることができた。

ふれあい相談員は地域での見守り支援として、地域福祉委員会（町会・町内会長や民生委員・児童委員等）と連携して、継続したアウトリーチを行った。生活困窮者の早期発見につながるような情報の収集や地域の生活課題の把握に努め、地域住民や民生委員・児童委員と共に、市営住宅の入居者の把握、能美資金の返済滞納者等、生活困窮状態が気になる世帯を訪問し、状況確認を進めた。

2. 事業状況

①生活困窮者自立相談支援事業

- ・困りごとに関する相談に幅広く応じ、就労支援を行う等、自立に向け本人の状況に応じた相談支援を実施した。毎月、支援調整会議を開催し、関係者による検討、情報共有、連絡調整などを行った。

②福祉サービス利用援助事業

- ・判断能力の低下した方が、地域社会で安心して生活できるように、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理等の支援を実施した。また、必要に応じて、多機関連携を図った。

③生活福祉資金貸付事業

- ・低所得者、障害者または高齢者に対し、資金の貸付と必要な相談支援を実施した。
- ・3月25日から、新型コロナウイルス感染症拡大を受けた支援として緊急小口資金の貸付の相談窓口を設置した。

④弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

- ・日常生活の中で起きる法律に関わる問題について、弁護士や行政書士が無料で相談に応じた。

⑤心配ごと相談所の運営

- ・日常生活上のあらゆる相談に応じ、適切な助言、指導を行い住民福祉の増進を図った。

令和元年度 くらしサポートセンターのみ 実績報告

① 生活困窮者自立相談支援事業

◎プラン作成件数 5 件

◎相談実件数 76 件

◎相談件数

	新規相談件数	相談延べ件数
4月	2 件	18 件
5月	4 件	22 件
6月	1 件	24 件
7月	4 件	25 件
8月	3 件	15 件
9月	3 件	16 件
10月	4 件	20 件
11月	0 件	18 件
12月	4 件	26 件
1月	3 件	19 件
2月	1 件	20 件
3月	0 件	26 件
合計	29 件	249 件

◎相談経路

相談先	人 数
本 人	13 名
家 族	2 名
民生児童委員	1 名
相談支援員（障害）	1 名
ケアマネ	0 名
高齢者支援センター	5 名
病 院	0 名
行 政	7 名
合 計	29 名

◎男女別内訳

男 性	19 名
女 性	10 名
合 計	29 名

◎年代別内訳

20代	30代	40代	50代	60代	70代	不 明
1 名	4 名	5 名	8 名	5 名	4 名	2 名

◎相談対応状況

・継続支援件数 18 件

・各制度等につなげた状況

就労支援	4 件	生活福祉資金	2 件
生活保護	1 件	障害福祉サービス	1 件
行政各課	5 件	消費生活支援センター	4 件
福祉サービス利用援助事業	1 件		

*その他 各あんしん相談支援センター、ケアマネ、相談支援員等は連携を図っている。

② 福祉サービス利用援助事業

◎契約件数

認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合 計
16 件	3 件	9 件	3 件	31 件

③ 生活福祉資金貸付事業

◎能美市福祉資金 利用件数 8 件

◎石川県生活福祉資金

資金の種類	件数(累積)
福祉資金・教育資金・緊急小口資金	43 件
総合支援資金	19 件
離職者支援資金	3 件
臨時特例つなぎ資金	2 件
合 計	67 件

実相談件数	12 件
延相談件数	97 件

◎そのほか新型コロナウイルス感染拡大を受けた支援として、緊急小口資金相談受付件数

6 件 (3月25日～3月31日)

④ 弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

◎弁護士無料相談

実施回数	24 回 (毎月2回開催)
利用者数	88 名
相談件数	126 件

◎行政書士無料相談 ※2月、3月中止

実施回数	5 回 (隔月1回開催)
利用者数	22 名
相談件数	23 件

◎行政書士無料講習会 ※12月、2月中止

実施回数	4 回 (隔月1回開催)
参加者数	8 名
テーマ	・終活講座①「エンディングノートで人生を整理整頓してみよう」 ・終活講座②「円満な相続とは」 ・終活講座③「遺言状を書いてみよう(公正証書遺言)」 ・成年後見制度がわかる講座「成年後見制度ってなんだろう」

◎心配ごと相談所の運営 ※3月は中止

	根上地区	寺井地区	辰口地区	合 計
4 月	3 件	0 件	3 件	6 件
5 月	1 件	0 件	0 件	1 件
6 月	5 件	2 件	0 件	7 件
7 月	0 件	0 件	0 件	0 件
8 月	0 件	0 件	0 件	0 件
9 月	1 件	1 件	0 件	2 件
10 月	1 件	1 件	0 件	2 件
11 月	1 件	0 件	2 件	3 件
12 月	0 件	0 件	1 件	1 件
1 月	0 件	1 件	1 件	2 件
2 月	1 件	1 件	1 件	3 件
3 月	中止	中止	中止	
合 計	13 件	6 件	8 件	27 件

【能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所事業報告】

1. 総括

事業所のケアマネジャーは看護師、社会福祉士、介護福祉士とそれぞれが持つ基礎資格を活かし、各地区のあんしん相談センターやくらしサポートセンターのみと連携を図りながら、処遇困難なケースにも積極的に取り組むことができた、利用者やその家族が住み慣れた地域で暮らせるよう支援ができた。

しかしながら、目標としていた顧客人数の獲得には至らなかった。

2. 運営状況

職員の変動により届け出項目に変更が生じたことや、採用者の経験がなかったこと、また、利用者の入退院や施設入所による中止も重なり、担当件数の回復に至らなかったことが減収の要因となった。

今後は、社会福祉協議会の事業所としてケアマネジメントの更なる質の向上と地域や関係機関との連携を目指しつつも、安定した事業所運営にも取り組んでいきたい。

3. 事業状況

① 居宅介護サービス計画の作成

- ・ 職員の人数に合わせ、特定事業所加算（Ⅱ）や（Ⅲ）を算定した。
- ・ 事業所内会議を毎週、定例で開催し、利用者に関する情報共有や留意事項に係る伝達を行った。
- ・ 24 時間携帯電話を輪番制で所持し、いつでも連絡が取れる体制を確保し、必要に応じ相談に対応した。

② 介護予防プランは介護給付のプラン作成に支障のない程度で受け入れた。

③ 要介護認定調査をコンスタントに実施した。

④ 事業所の資質向上を図った。

- ・ 満足度調査、介護サービスの情報の公表を行った。
- ・ 研修計画を立て、業務に必要な研修や地区エリア会議に参加した。

能美市社会福祉協議会 能美居宅介護支援事業所 令和元年度 実績報告

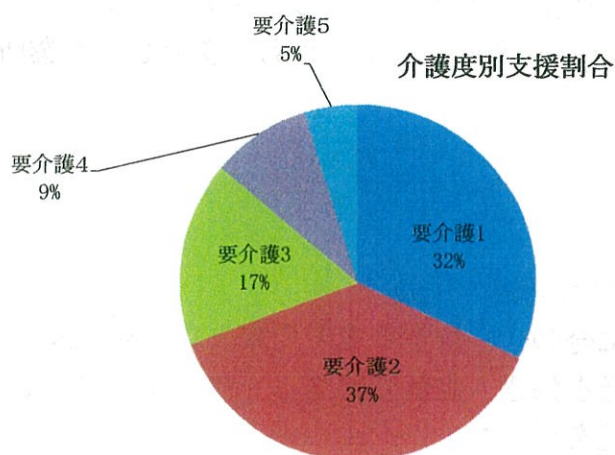
<介護保険事業>

介護保険の要介護の方や家族の要望に基づき、居宅介護サービス月間計画(ケアプラン)を作成 (単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数	ケアマネー一人当たりの件数
作成件数	76	75	71	73	75	72	70	71	68	66	63	59	839	20.0

月別介護度支援内訳

要介護1	26	25	23	26	25	22	22	21	22	21	19	16	268
要介護2	24	26	25	25	27	27	27	27	26	26	28	26	314
要介護3	14	13	13	12	12	12	12	12	10	11	10	10	141
要介護4	8	7	7	7	8	7	5	7	7	5	4	4	76
要介護5	4	4	3	3	3	4	4	4	3	3	2	3	40



<受託事業>

※住宅改修業務:依頼なし

予防プラン作成

	件数
4月	5
5月	4
6月	4
7月	4
8月	4
9月	4
10月	4
11月	8
12月	9
1月	9
2月	9
3月	8
合計件数	72

認定調査受託

	件数
4月	3
5月	4
6月	2
7月	3
8月	3
9月	4
10月	4
11月	7
12月	4
1月	3
2月	0
3月	7
合計件数	44

能美市社会福祉協議会 能美居老介護支援事業所
令和元年度 実績報告

収入計(円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護	1,139,180	1,173,350	1,109,080	1,083,990	1,101,700	1,040,080	1,030,220	1,046,650	1,074,460	1,048,160	974,470	928,850	12,750,190
要支援	17,780	13,710	13,710	13,710	13,710	13,710	13,710	28,820	34,790	32,890	32,890	29,990	259,420
認定調査	8,748	11,664	5,832	8,748	8,748	11,664	11,880	20,790	11,880	8,910	0	20,790	129,654
その他(住宅改修のみ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和元年度収入計	1,165,708	1,198,724	1,128,622	1,106,448	1,124,158	1,065,454	1,055,810	1,096,260	1,121,130	1,089,960	1,007,360	979,630	13,159,264
平成30年度収入計	1,487,326	1,475,398	1,449,722	1,346,524	1,328,010	1,255,976	1,278,788	1,224,934	1,245,998	1,086,116	971,308	1,255,434	15,405,534
差額(令和元年度-平成30年度)	△ 321,618	△ 276,674	△ 321,100	△ 240,076	△ 203,852	△ 190,522	△ 222,978	△ 128,674	△ 124,868	3,844	36,052	△ 275,804	△ 2,266,270
累計	1,165,708	2,364,432	3,493,054	4,599,502	5,723,660	6,789,114	7,844,924	8,941,184	10,062,314	11,152,274	12,159,634	13,139,264	

利用者数(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護	76	75	71	73	75	72	70	71	68	66	63	59	839
要支援	5	4	4	4	4	4	4	8	9	9	9	8	72
認定調査	3	4	2	3	3	4	4	7	4	3	0	7	44
その他(住宅改修のみ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和元年度利用者計	84	83	77	80	82	80	78	86	81	78	72	74	955
平成30年度利用者計	108	103	100	97	97	93	92	89	89	77	70	88	1,103
比較(令和元年度-平成30年度)	△ 24	△ 20	△ 23	△ 17	△ 15	△ 13	△ 14	△ 3	△ 8	1	2	△ 14	△ 148

